

---

---

資 料

---

---

平成21年度当初予算

(単位：千円)

収 入

項目		金額	備考
1 運営費交付金	運営費交付金	1,250,384	
	計	1,250,384	
2 自己収入	授業料収入	428,814	
	入学検定料収入	12,391	
	入学料収入	66,098	
	その他収入	32,581	
	計	539,884	
3 受託研究等収入	受託研究等収入	108,416	
	計	108,416	
合 計		<b>1,898,684</b>	

支 出

項目		金額	備考
1 人件費	役員人件費	19,063	
	法人固有職員人件費	976,525	退職手当を含む。
	県派遣職員人件費	145,552	
	その他人件費	52,159	
	計	1,193,299	
2 教育研究費	教育経費	99,905	
	研究経費	113,415	
	教育研究支援経費	36,478	
	計	249,798	
3 一般管理費	施設設備維持管理費	273,545	
	法人運営費	53,550	
	計	327,095	
4 社会貢献等経費	社会貢献経費	20,076	
	受託研究等外部資金事業費	100,416	
	寄附金事業経費	8,000	
	計	128,492	
合 計		<b>1,898,684</b>	

平成21年度各種委員会・プロジェクト会議委員一覧

2010/1/13現在

委員会等名	委員長等	部局長である教員等	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科	その他	おおよその開催頻度	任期(始~終期)	事務局委員	事務局担当
役員会	リボウィッツ理事長	常勤理事全員(リボウィッツ理事長、上泉副理事長、小山石理事、鈴木理事、藤田理事)					武田理事、山田監事、小原監事	年6回	H20.4.1 H22.3.31	—	経営企画室
経営審議会	リボウィッツ理事長	常勤理事全員(リボウィッツ理事長、上泉副理事長、小山石理事、鈴木理事、藤田理事)					武田理事、井部俊子(聖路加看護大学学長)、加福善貞(株式会社青森銀行取締役頭取)、諸星裕(桜美林大学大学院教授)	年3回	H20.4.1 H22.3.31	—	経営企画室
経営改善プロジェクト	小山石事務局長	リボウィッツ学長(顧問) 上泉副学長	中村教授	岩月教授	大竹准教授	佐藤伸教授		年6回	H20.4.1 H22.3.31	事務局長 経営企画室長	経営企画室
教育研究審議会	リボウィッツ理事長	リボウィッツ学長、上泉副学長、松江研究科長、鈴木学部長、藤井学生部長、入江附属図書館長、藤田地域連携・国際センター長兼研究推進・知的財産センター長	山本学科長(オブザーバー)	尾崎学科長(オブザーバー)	大和田学科長(オブザーバー)	吉池学科長(オブザーバー)		月1回	H20.4.1 H22.3.31	事務局長	経営企画室
教授会	鈴木学部長	—	全教授	全教授	全教授	全教授		年8回	充て職のため任期なし	—	教務学生課
教員会議	上泉副学長	—	全教員及び助手	全教員及び助手	全教員及び助手	全教員及び助手	センターの講師及び助手 =川内講師及び奈良岡助手	年7回	充て職のため任期なし	—	経営企画室
研究科委員会	松江研究科長	松江研究科長	看護学分野(代表中村教授)、関係教員	理学療法学分野(代表岩月教授)、関係教員	地域保健福祉学分野(代表渡邊教授)、関係教員	生活健康科学分野(代表今教授)、関係教員		年6回	充て職のため任期なし	—	教務学生課
学部運営連絡会議	鈴木学部長	鈴木学部長	山本学科長	尾崎学科長	大和田学科長	吉池学科長		月1回	充て職のため任期なし	—	教務学生課
健康科学部入学試験委員会											
研究科入学試験委員会											
評価・改善委員会	上泉副学長	上泉副学長、松江研究科長、鈴木学部長	角濱准教授	岩月教授	大山教授	岩井教授	各学科長	月1回	H20.4.1 H22.3.31	経営企画室長	経営企画室
危機管理委員会	リボウィッツ学長	リボウィッツ学長、上泉副学長、松江研究科長、鈴木学部長、藤井学生部長、入江附属図書館長、藤田地域連携・国際センター長兼研究推進・知的財産センター長						年2回	充て職のため任期なし	事務局長 経営企画室長 各課長	経営企画室
人権に関する委員会	リボウィッツ理事長	リボウィッツ学長	山本教授	勘林准教授	大山教授	佐藤伸教授	理事長が必要と認める者 研究科長及び事務局長が指名する各1名 深谷教授、佐藤恵教授、経営企画室長	年2回	H20.4.1 H22.3.31	事務局長	経営企画室
衛生委員会	上泉副学長	上泉副学長	福井講師	桜木講師	千葉多准教授	佐々木助手	産業医1、衛生管理者1	月1回	H20.4.1 H22.3.31	経営企画室長	経営企画室
図書館委員会	入江附属図書館長	入江附属図書館長	本間助教	福島助教	杉山准教授	向井助教	司書1名	月1回	H20.4.1 H22.3.31	図書課長	図書課
広報情報委員会	入江附属図書館長	入江附属図書館長	坂本講師 佐藤愛講師	長門助教	種市助手	山田(真)准教授		月1回	H20.4.1 H22.3.31	経営企画室長	経営企画室

委員会等名	委員長等	部局長である教員等	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科	その他	おおよその開催頻度	任期(始~終期)	事務局委員	事務局担当
教務委員会	鈴木学部長	鈴木学部長	大井教授 木村准教授 吹田講師	渡部教授 桜木講師 盛田講師	入江教授 齋藤文講師 坂下講師	今教授 浅田准教授 吉岡准教授	委員長が必要と認める者 山田准教授	月1回	H20.4.1 H22.3.31	教務学生課長	教務学生課
人間総合科学科目運営委員会	鈴木学部長	鈴木学部長、藤田研究推進・知的財産センター長	大関教授 清水講師	勘林准教授 李講師	大竹准教授 千葉多准教授	アラン ノールズ教授 浅田准教授	学部長が必要と認める者 藤田研究推進・知的財産センター長 山田真准教授、川内講師	年6回	H20.4.1 H22.3.31	教務学生課長	教務学生課
学生委員会	藤井学生部長	藤井学生部長	深谷教授 藤田あ講師	李講師	石田講師	井澤弘講師		月1回	H20.4.1 H22.3.31	教務学生課長	教務学生課
学生募集対策委員会	藤井学生部長	上泉副学長	鄭准教授	勘林准教授	杉山准教授	吉岡准教授		月1回	H20.4.1 H22.3.31	教務学生課長	教務学生課
保健管理委員会	大山教授	藤井学生部長	井澤美樹子講師	勘林准教授	加賀谷助教	向井助教	学校医、心理相談員、保健嘱託員 福井講師	年3回	H20.4.1 H22.3.31	教務学生課長	教務学生課
就職対策委員会	藤井学生部長	藤井学生部長	藤本准教授	山下准教授	増山准教授	齋藤長講師		月1回	H20.4.1 H22.3.31	教務学生課長	教務学生課
センター合同運営委員会	藤田地域連携・国際センター長 兼 研究推進・知的財産センター長	藤田地域連携・国際センター長 兼 研究推進・知的財産センター長					地域連携・国際センター及び研究推進・知的財産センターの各科長 川内講師、奈良岡助手		H21.4.1 H22.3.31	経営企画室長	地域連携推進課
地域連携・国際センター運営委員会	藤田地域連携・国際センター長	藤田地域連携・国際センター長					地域連携・国際センター長が必要と認める 地域連携・国際センターの各科長 川内講師、奈良岡助手	年3回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
地域連携科委員会(H21版)	(科長の充て職基本だが、センター長が指名する者でもokの規定とする。) 杉山准教授	藤田地域連携科長(兼=地域連携・国際センター長)	清水講師 千葉敦講師	山下准教授 三浦雅講師	増山准教授 杉山准教授	井澤弘講師 齋藤長講師	センター専任教員=川内講師	年3回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
国際科委員会	深谷国際科長	藤田地域連携・国際センター長	山田典講師 山本加助教	渡部教授 藤田(智)准教授	出雲教授(H21年10月~) 千葉多准教授	アラン ノールズ教授 メリッサ オガサワラ助教	国際科長が必要と認める者 長門助教、佐藤仁美助手 センター専任教員=川内講師	月1回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
研修科委員会	佐藤恵研修科長	藤田地域連携・国際センター長	吹田講師 山本真助教	川口准教授 盛田講師	出雲教授 石田講師	バリー カバナー講師 廣森助教	研修科長が必要と認める者 富田助教、伊藤助手、福島助教 センター専任教員=奈良岡助手	月1回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
社会福祉研修運営委員会	渡邊教授	藤田地域連携・国際センター長	細川准教授	藤田智准教授	西村愛講師	廣森助教	センター専任教員=奈良岡助手	年2回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
看護研修運営委員会	上泉教授	上泉副学長、藤田地域連携・国際センター長	深谷教授 鄭准教授 織井優貴子教授 村上助手 佐々木雅助手				看護専門職教育課程担当教員 センター専任教員=奈良岡助手	年2回	任期の記載なし	地域連携推進課長	地域連携推進課
研究推進・知的財産センター運営委員会(※H21は活動休止)	藤田研究推進・知的財産センター長	藤田研究推進・知的財産センター長					中村研究開発科長 研究推進・知的財産センター長が必要と認める者(大関教授、神成教授、大山教授、岩井教授)	年2回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
知的財産委員会	藤田研究推進・知的財産センター長	藤田研究推進・知的財産センター長					青森県知的財産アドバイザー1、特許流通アドバイザー又は特許情報活用支援アドバイザー1、財団法人21あおり産業総合支援センターコーディネーター1、岩井教授、識者1、オブザーバー3	年2回	H20.4.1 H21.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
共同・受託研究受入審査委員会	藤田研究推進・知的財産センター長	藤田研究推進・知的財産センター長	深谷教授	佐藤秀一教授	大山教授	今教授		年2回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
特別研究等審査会	藤田研究推進・知的財産センター長	学長(顧問) 藤田研究推進・知的財産センター長	山本学科長	尾崎学科長	大和田学科長	吉池学科長	研究推進・知的財産センター長が必要と認める者 中村研究開発科長	年3回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課

委員会等名	委員長等	部局長である教員等	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科	その他	おおよその開催頻度	任期(始~終期)	事務局委員	事務局担当
研究開発科委員会	中村研究開発科長	藤田研究推進・知的財産センター長	鳴井准教授 鄭准教授	佐藤秀一教授	大山教授	山田真准教授	研究推進・知的財産センター長が必要と認める者＝佐藤伸教授、岩井教授、石田講師、井澤(弘)講師、杉本助教、乗鞍助教、橋本助教、市川助手、森永助手 センター専任教員＝奈良岡助手	月1回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
研究倫理委員会	大関教授		大関教授	神成教授	大竹准教授	浅田准教授	学外識者、中村研究開発科長、委員長が必要と認める者＝佐藤伸教授	月1回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
動物実験委員会	中村研究開発科長		大関教授	神成教授	石田講師	井澤弘講師		年1回	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
利益相反管理委員会	藤田研究推進・知的財産センター長	藤田研究推進・知的財産センター長	山本学科長	尾崎学科長	大和田学科長	吉池学科長			H21.12.8 H24.3.31	経営企画室長 地域連携推進課長	地域連携推進課(経営企画室)
大学コンソーシアム青森運営協議会	上泉副学長	リボウィッツ学長、上泉副学長、藤田研究推進・知的財産センター長			杉山准教授	浅田准教授		月1回	プロジェクトのため規定なし	地域連携推進課長	地域連携推進課
各部会委員 教育連携部会 研究連携部会 地域連携部会		鈴木学部長(教育連携部会)、藤田研究推進・知的財産センター長(研究連携部会・部会長)	角濱准教授(教育連携部会) 清水講師(研究連携部会)		西村講師(教育連携部会) 杉山准教授(地域連携部会・部会長)	山田真准教授(教育連携部会) 浅田准教授(教育連携部会) 佐藤伸教授(研究連携部会)	忝村客員教授(知的財産アドバイザー)(研究連携部会)	月1回	プロジェクトのため規定なし	地域連携推進課長	地域連携推進課

# 職 員 名 簿

学 長	リボウイツツ よし子
副学長	上 泉 和 子

## 健康科学部

教授（学部長）	鈴 木 孝 夫
---------	---------

## 看護学科

教授（看護学科長）	山 本 春 江
教授兼務（学長本務）	リボウイツツ よし子
教授兼務（副学長本務）	上 泉 和 子
教 授	藤 井 博 英
教 授	大 関 信 子
教 授	中 村 由美子
教 授	大 井 けい子
教 授	深 谷 智恵子
教 授	織 井 優貴子
准教授	角 濱 春 美
准教授	細 川 満 子
准教授	鳴 井 ひろみ
准教授	藤 本 真記子
准教授	木 村 恵美子
准教授	鄭 佳 紅
講 師	山 田 典 子
講 師	吹 田 夕起子
講 師	藤 田 あけみ
講 師	坂 本 祐 子
講 師	佐 藤 愛
講 師	福 井 幸 子
講 師	千 葉 敦 子
講 師	梅 田 弘 子
講 師	清 水 健 史
講 師	井 澤 美樹子
助 教	三 浦 博 美
助 教	本 間 ともみ
助 教	富 田 恵
助 教	杉 本 晃 子
助 教	山 本 加奈子
助 教	山 本 真樹子
助 手	伊 藤 治 幸

助 手	内 城 繪 美
助 手	村 上 眞須美
助 手	市 川 美奈子
助 手	佐々木 綾 子
助 手	佐々木 雅 史
助 手	佐 藤 仁 美
助 手	片 山 綾 乃
助 手	戸 沼 由 紀
助 手	谷田部 仁 子
助 手	伝法谷 明 子
助 手	船 木 淳
助 手	小 池 祥太郎

### 理学療法学科

教授 (理学療法学科長)	尾 崎 勇
教 授	鈴 木 孝 夫
教 授	渡 部 一 郎
教 授	神 成 一 哉
教 授	佐 藤 秀 一
教 授	岩 月 宏 泰
准教授	山 下 弘 二
准教授	川 口 徹
准教授	勘 林 秀 行
准教授	藤 田 智香子
講 師	三 浦 雅 史
講 師	桜 木 康 広
講 師	李 相 潤
講 師	盛 田 寛 明
助 教	橋 本 淳 一
助 教	長 門 五 城
助 教	福 島 真 人
助 手	須 郷 磨衣子

### 社会福祉学科

教授 (社会福祉学科長)	大和田 猛
教 授	入 江 良 平
教 授	渡 邊 洋 一
教 授	大 山 博 史
教 授	佐 藤 惠 子
教 授	出 雲 祐 二
准教授	千 葉 多佳子
准教授	杉 山 克 己

准教授	大 竹 昭 裕
准教授	増 山 道 康
講 師	齋 藤 史 彦
講 師	坂 下 智 恵
講 師	石 田 賢 哉
講 師	西 村 愛
助 教	加賀谷 真 紀
助 教	長谷川 真理子
助 手	種 市 寛 子

### 栄養学科

教授（栄養学科長）	吉 池 信 男
教 授	松 江 一
教 授	藤 田 修 三
教 授	ノールズ アラン
教 授	羽 入 辰 郎
教 授	今 淳
教 授	佐 藤 伸
教 授	岩 井 邦 久
准教授	山 田 真 司
准教授	浅 田 豊
准教授	吉 岡 美 子
講 師	カヴァナ バリー
講 師	井 澤 弘 美
講 師	齋 藤 長 徳
助 教	廣 森 直 子
助 教	リボウイツ ロバート
助 教	オガサワラ メリッサ
助 教	乗 鞍 敏 夫
助 教	向 井 友 花
助 手	森 永 八 江
助 手	熊 谷 貴 子
助 手	佐々木 万衣子
外国語語学講師	メイ アーネスト
外国語語学講師	クルーズ ロナルド

### 健康科学研究科

健康科学研究科長兼務	松 江 一
------------	-------

### 学生部

学生部長兼務	藤 井 博 英
--------	---------



### 附属図書館

附属図書館長兼務 入 江 良 平

### 地域連携・国際センター

地域連携・国際センター長兼務 藤 田 修 三  
講 師 川 内 規 会  
助 手 奈良岡 恵 子

### 研修科

研修科長兼務 佐 藤 恵 子

### 国際科長

国際科長兼務 深 谷 智恵子

### 研究推進・知的財産センター

研究推進・知的財産センター長兼務 藤 田 修 三

### 研究開発科

研究開発科長兼務 中 村 由美子

# 青森県立保健大学事務局

事務局長 小山石 康 雄

## 経営企画室

経営企画室長 小 野 勝 義  
主 幹 間 山 秀 幸  
主 幹 齋 藤 康 道  
主 幹 佐 藤 孝 之  
主 幹 古 跡 健 将  
主 査 鈴 木 玲 子  
主 査 赤 坂 太 郎  
主 査 大 西 学  
主 事 花 田 理 江

## 経理課

経理課長 坂 本 芳 人  
主 査 檜 山 律 子  
主 事 山 田 知 子  
主 事 小山内 和香子

## 地域連携推進課

地域連携推進課長 石 川 順 一  
総括主幹 高 坂 修 一  
主 査 佐 藤 里 美  
主 事 寺 田 泰 二

## 図書課

図書課長兼務 石 川 順 一  
主 査 小 野 由 美  
主 事 山 田 奈 々

## 教務学生課

教務学生課長 白 戸 一 郎  
主 幹 鹿 内 亮 一  
主 査 松 尾 洋 子  
主 査 長 内 俊 幸  
主 査 岩 渕 操  
主 事 和 島 茜  
主 事 佐 藤 知恵子

# 新たな未来へ

作詞/作曲 小比類巻かほる

1 8

9 G(9) FA7/G G(9) FA7/G

13 CA7 Bm7 Em7 Am7 C/D D7

17 B♭m7/E E7 B♭7(13) Am7 F♯m7 B7 Em7

21 Dm7 G7 CA7 F♯m7 B7 Em7 A7

25 C/D D7 G Am7/G GΔ7

29 Am7/G Em7 A7 Am7

33 C/D D7 G Am7/G GΔ7

37 Am7/G Em7 CA7 Bm7

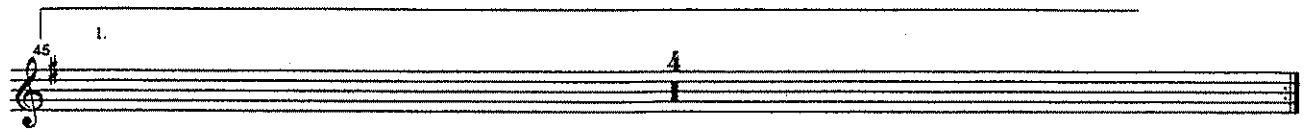
まあつ い まり は 向 じ か ま な る い お お わ ら い な 抱 い き た し び め  
 じ て き ぼ う か へ か と な む た か へ う つ こ こ く る み は ち あ た れ ら も し が い 田 を い つ て く る た  
 め つ な る く き 手 の つ ぬ く な も か り か ち わ か ら え が な お る み と ち お し る え べ だ く し れ  
 て た ま か け が み え の せ 無 か い も へ か が こ や る く の ま ま さ た が が し も と じ め た て え  
 ゆ 合 こ え う ぼ し い ん っ じ ま あ で う も よ 楽 る わ こ ら び な だ い あ ま こ  
 れ こ る 明 に 日 触 へ れ い ほ く ん っ と う も せ だ き い き の の り 葉 こ 味  
 え を よ 知 う づ こ い の つ の お 日 の か お だ お れ ぞ か ら の に ゅ え う が き  
 い で た め る め だ っ と ぼ ん な ひ と る ま げ も る す よ う っ に と と ち び す た れ

41 Bm7/E Em7 Am7 C/D G(9)



つなぐたい あらたなみらいへ

45 1.



49 2. Ab Bbm7/Ab AbΔ7



しんじあうよろこびにあふ

53 Bbm7/Ab Fm7 Eb7 Bbm7



れる明日へいくつもじだいをのりこ

57 Db/Eb Eb7 Ab Bbm7/Ab AbΔ7



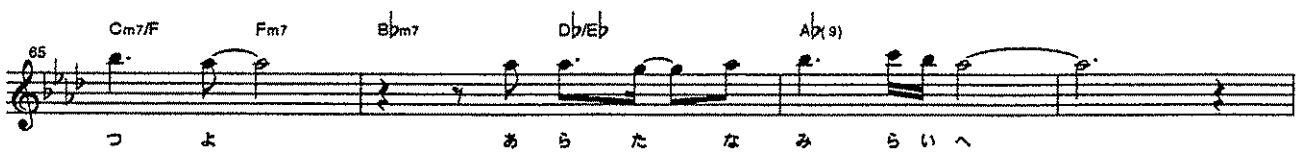
えようこのむねのおおぞらにえが

61 Bbm7/Ab Fm7 DbΔ7 Cm7




いたゆめにつばさひろげるよにとびた

65 Cm7/F Fm7 Bbm7 Db/Eb Ab(9)



つよあらたなみらいへ

69 4.



## 【青森県立保健大学校歌】

### 新たな未来へ (作詞／作曲：小比類巻かほる)

さあ、今始まる  
終わらない旅路  
「希望」へと向かう心は  
新らしい日を創る

巡る季節の中 交わす笑顔、道標にして  
まだ見ぬ世界へ 輝くもの  
探し求めてゆこう

信じ合う 喜びにあふれる明日へ  
幾つも 時代を乗り越えよう  
この胸の 大空に描いた夢に  
翼、広げるように 飛び立つよ 新たな未来へ

もう 振り向かない  
想い抱きしめて  
遥か彼方へ続く道  
誰もが歩いてきた

つなぐ手の温もり 力になると教えてくれた  
かけがえの無いもの 心のまま  
互いに伝え合えば

いつまでも 変わらない真心に触れ  
本当の優しさの意味を知る  
いつの日か 誰かの「勇気」であるよう、  
どんな時もずっと 忘れない 出逢えた奇跡を

信じ合う 喜びにあふれる明日へ  
幾つも 時代を乗り越えよう  
この胸の 大空に描いた夢に  
翼、広げるように 飛び立つよ 新たな未来へ

まずは年報2009の刊行が大幅に遅れてしまったことをお詫びします。冒頭から言い訳めいた物言いになりますが、この遅延は今回創刊時以来はじめて大幅な構成の見直しを行ったという事情にも起因しています。

『青森県立保健大学年報』創刊号の巻頭言で新道学長はこう書かれました。「新しい大学は毎日の積み重ねで、一步一步歴史を紡いでいくこととなります。・・・年報の作成という作業に従事し、或いはその成果としての年報を読むことは、教職員のそれぞれが何に向かって努力してきたのか、或いは何をこれからしなければならないのかに気づく手だてとなり得るのではないのでしょうか。」新しい大学では、教育、研究、地域貢献、そして学内実務における日々の活動がそのまま大学の青写真を具体化し、大学を現実態として創造する営みとなります。これまで新道前学長の巻頭言にあるとおり、年報はその歩みを記録に残す役割を担ってきたのでした。

しかし本学も2009年に10周年を迎えました。離陸体勢から巡航速度に移行を果たし、教育・研究・地域貢献活動の経常的運営体制が確立するとともに、従来のような年報の刊行が、多忙な学校業務の中で次第に負担となりはじめていたということも否めません。数年前から「年報は多大の時間をかけて刊行されるが、実際のところ誰が読むのだろうか」とか「各種の報告書と内容・項目が重複しており、執筆者はあちこちに同じようなことを書かねばならない、これを整理できないか」といった声がしばしば聞かれていました。

そこで年報の編集を委ねられた情報委員会は、年報の全面的な見直しの検討に取り組みました。廃止も選択肢にあがりましたが、まずは以下のように見直しの基本方針を設定しました。

- ・年報を年度ごとの活動報告書として位置づけ、主として客観的な事実を記載する。
- ・諸センター報告書と重複する項目は削除する。
- ・教員の経常研究のように年度ごとのまとまりをつけにくい項目は削除し、活動実績のみを記載する。

この方針にしたがって年報の2009の構成第1案がまとめられ、上泉副学長と協議しました。その中で大学の点検・自己評価のためのデータの集積という役割を付加することが提案され、そうした項目も含めた第2案が常勤理事会に上申されました。理事会では、研究推進・知的財産センターおよび地域連携・国際センターの年報も統合し、さらに大学院の内容も収録するという提案がなされ、それぞれのセンターの委員会に諮った後、最終的な項目が決定されました。

その後、大学点検・自己評価データ項目の簡素化を受けて、項目案はさらに修正されました。両センターの年報を統合する段階で調整がなされるなど、その後もさまざまな紆余曲折があり、最終段階ではデータを収録したPCのクラッシュというアクシデントまでありましたが、ようやく完成することができました。

いま本学では、教育、研究、地域貢献などの情報を網羅し一元的に管理するデータベース構築計画が開始しました。実現した暁には、学内の教職員全員が担当する情報を端末から入力すれば、自動的に全学的なデータベースに保存されます。年報は全学データベースの年度ごとの切断面となり、従来のように同じことを何度も書かされたり、書類を探し回ることもなくなるでしょう。今回の構成全面見直しはそこにいたる過渡的段階となるかもしれません。

最後に、年報編集に協力していただいた方々すべてに心から感謝いたします。